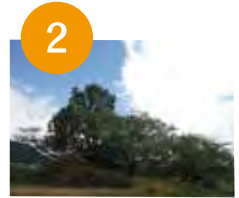


コース概要

聖徳太子ゆかりの叡福寺・西方院から、夏祭りには神輿と珍しい舟形地車で賑わう、科長神社をめぐり、小野妹子の墓から太子町を一望できるコース。

太子前バス停を降りると、北には叡福寺の山門が、南の緩やかな石段を登り詰めた所には、聖徳太子の3人の乳母によって建立されたと伝えられる西方院があります。南東の方に見える緑の森は用明天皇陵。用明天皇は聖徳太子の父君で、陵は巨大な方墳です。さらに東に向かえば日本で最初の女帝、推古天皇の陵が。二子塚古墳はそのすぐ近くにあり、地元にはこの二子塚古墳が本当の推古天皇陵とする言い伝えもあります。住宅地を抜けると、科長神社と遣隋使として有名な小野妹子の墓が。眺めのいい妹子墓から竹内街道に向かい、歴史資料館では竹内街道沿線の歴史を学ぶことができます。



推古(すいこ)天皇陵
日本で初めての女帝である第33代推古天皇は聖徳太子を摂政にし、大陸の隋との交渉によって政治の改革や仏教文化を中心とした飛鳥文化を花咲かせました。推古天皇陵は、東西に長い三段築成の長方墳で、内部には2つの横穴式石室があると考えられています。推古天皇の子、竹田皇子と一緒に埋葬されていると言われています。

二子塚(ふたごづか)古墳
推古天皇陵の南東200mに位置する二子塚古墳は、方墳を2基つなぎ合わせた双方墳という珍しい形式を有しています。東西の墳丘それぞれに、ほぼ同形同大の横穴式石室があり、石室の使用石材の隙間や表面に漆喰を充填塗布しています。また蓋の縄掛突起が退化したカマボコ形を呈する家形石棺がそれぞれの石室に納められています。地元には本墳こそが本当の推古天皇と竹田皇子の合葬陵であるとする言い伝えがあります。

春にはさくら、初夏にはあじさいの花が…

小野妹子墓
科長神社南側の小高い丘の上に、古くから小野妹子の墓と伝えられる小さな塚があります。妹子は、推古天皇の時代に遣隋使として、当時中国大陸にあった隋という大国に派遣された人物です。妹子が聖徳太子の守り本尊の如意輪観音の守護を託され、坊を建て、朝夕に仏前に花を供えたのが、池坊流の起こりになったとされることから、現在、塚は池坊によって管理されています。

夏

科長(しなが)神社
科長神社は、平安時代の『延喜式』という書物に記録された、いわゆる式内社と呼ばれる由緒のある神社で、級長津彦命(しなつひこのみこと)、級長津姫命(しなつひめのみこと)など8柱を祀るために、八社大明神とも呼ばれています。毎年7月24日から30日の間の日曜日の例祭には、神輿と地車5台が出されて賑わいます。